

## 平成23年度 外部評価書

学 校 名 和歌山市立中之島小学校

作成日 平成24年 2月21日

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	体づくり
本年度の重点目標に対する意見	情報の発信や保護者・地域・諸団体との連携・協力・交流を積極的に行うことで、さらに開かれた学校づくりができると考えられる。	学校教育のあらゆる場面で、命の大切さやひとりひとりが大切にされ、認められるよう、お願いしたい。	国語力の向上に努めることで、読みとる力やまとめる力が育ち、他教科の伸びにつながると期待する。	運動の楽しさ、自分の目標に向かっての努力、達成した時の喜び等、体育科学習で得られるものは多く、将来の体・心づくりに続くものであり、実践に期待する。
取組の具体的方策に対する意見	学校・学年・学級だよりが定期的にだされ、校長室だよりも頻繁にだされ、学校の教育活動や子ども達の状況がよくわかる。 安全面を考慮し、さらに開かれた学校づくりを目指してほしい。	学校生活での道德教育を意識させる場面について、家庭に問うように知らせてくれる学校便りや校長室便りは、保護者の子育ての指針となり、豊かな心づくりにつながるように思う。 学年を越えた縦割り活動や地域の方々との交流・幼保小連携教育が多く実施され、豊かな心づくりに有効である。	「読書タイム」や「聞くテスト」は、短時間で、集中力が身につく、1限目からの授業に落ち着いて取り組めるようだ。 子どもの「つまずき」を的確にとらえ、個別に手を差し伸べ、次の学年へと進ませてほしい。	生活調べ（ドラドラ貯金）で、定期的に保護者も子ども達も生活習慣を見つめることができ、続けて実施することは有効だ。また、その結果を家庭に向けて発信し、新しい情報も付け加えていただくと、なお効果的だ。
取組の成果と課題に対する意見	保護者アンケートでも学校からの便りを意識して読んでいることがわかる。学校側からの質の高い情報を発信するようにお願いしたい。 今年度実施した「中之島探検」は新しい試みで、子ども・家庭・地域が地区を知り、交流を深めるよい取組であった。	保護者アンケートの結果から、子ども達の心の成長についての学校での取り組みに満足していることがわかる。 学年毎に特長ある役割や交流行事があり、低学年の子ども達は上級生の責任ある行動を見習おうとする姿が見られ、心の育ちを感じる。 幼保小の交流では、1・2年生の子ども達にも活躍の場が与えられ、やさしい心遣いが見うけられた。	基礎的な学力をそれぞれの学年で確実にしっかりつけてほしい。ひとつ前の学年で基礎的な学力が十分でない子どもは、次の学年での学習に積極的に取り組むことが難しく、意欲が欠けてしまう。3学期はそうした子どもがなくなるように学力の定着に取り組んでほしい。	心も体も成長していく子ども達に「今大切なことは何か」を常に考えながら、学校と家庭・地域が連携していくことが必要だと考える。 自校以外の子ども達と記録を競えるチャレンジランキングは、スポーツに関心をもたせ、体力づくりに有効であり、これからも効果的に使ってほしい。
次年度に向けての改善方法に対する意見	地域の方や保護者のボランティアを積極的に招き、子ども達や教職員とをより強く結ぶよう期待したい。 校門横の掲示板を、保護者や地域の方々がよく見ている。学校の活動を知ってもらおう一番の広報の手立てであり、工夫して掲示してほしい。 ホームページは、見る人にインパクトを与えるようなスタイルに変えてもらいたい。	家庭での保護者の役割は心の育ちに重要であり、常に学校からのアドバイスを心がけてほしい。 不登校の子やその保護者に対して、教職員やスクールカウンセラーを中心に、いろいろな働きかけを行ってほしい。	国語力の向上のため、学ぶ楽しさを実感するため、伝え合う授業を低学年から意識して積極的に取り入れてほしい。 基礎学力の定着のため、家庭での学習時間を確保することが重要で、学年やクラスでの宿題の量や質を考えてほしい。 習熟度別の授業形態を研究し、実践に向けて努力してほしい。	同学年の子どもが少ない中、子ども達が各競技会に参加し、他校の子ども達と競い合うことは、さまざまな刺激を受け、よい機会となるので、できるだけ参加させてほしい。 子ども達が学習している「食育」についても、懇談会や講演会で情報を伝えてもらいたい。

### その他学校経営の改善に関する意見

新学習指導要領を意識したカリキュラム編成について、校長のリーダーシップの元、全教職員で協力し、よりよいものになるように努力してほしい。

